

高木兼寛を学ぶ 地域の取り組み (高木兼寛顕彰会)

ビタミン街道歩こう会

兼寛生誕地にある「穆園広場」の見学やミカン狩り、宝探しなども交えながら、ゆかりの地を歩きます。昼食には麦飯を食べ、郷土の偉人をしのびます。



小中学校で学習会などを実施

市立図書館教養講座や市内の小中学校などで、子どもや保護者を対象として、兼寛に関する講演や学習会を開催しています。



資料展示 (高岡図書室 高岡総合支所内)

高木兼寛に関連する紹介パネルや資料を図書室内に展示しています。



高木兼寛顕彰会  
会員募集中!

令和元年は高木兼寛生誕170年、来年の令和2年は没後100年の年となります。高木兼寛顕彰会では、会員(一般会員・賛助会員)を募集しています。

●入会を希望する人は郵便かFAXで下記まで。  
〒880-2222 高岡町五町363-3  
高木兼寛顕彰会事務局  
☎・FAX 89-2070

生誕170年記念事業

1. 記念講演会

日時: 令和元年9月7日(土) 13時30分～16時  
場所: 高岡地区農村環境改善センター(高岡総合支所隣)  
主催: 高木兼寛公生誕170年記念事業実行委員会  
内容: 東京慈恵会医科大学学長講演、高岡中学校音楽部演奏  
展示ブース設置による功績紹介 など

2019  
9/7(土)

2. 記念式典

日時: 令和元年9月8日(日)  
10時～10時45分  
場所: 穆園広場  
主催: 宮崎市

2019  
9/8(日)

3. 記念PR事業

宮崎カーフェリー船内「みやざきグルメフェスタ」でのカレーの提供と功績の紹介  
期間: 令和元年10月1日(火)～10月31日(木)  
内容: 宮崎～神戸便の船内レストランで、兵食改善のメニューとなったカレーを提供。またパネルやポスターなどを掲示して、功績を紹介します。

2019  
10/1(火)～31(木)



私の生誕170年をきっかけに、県内外の皆さんにも“ビタミンの父・高木兼寛”を知ってもらいたいですね。

「宮崎みなとまつり」で功績を紹介しカレーを販売しました

2019  
5/5(日)

開催: 令和元年5月5日(日)  
内容: 海上自衛隊輸送艦「くにさき」が寄港する「宮崎みなとまつり」で、「TAKAOKA つなぐ」が麦飯と白米が選べるカレー200食を販売。



食物とかけの関係を着目  
陸軍医師との対立を乗り越え兵食を改善  
海軍軍医だった兼寛は当時の海軍で死者が多かった難病、かけの予防法に取り組みます。調査により白米と漬物を主食にしている階級の低い兵士に病人が多いと分かり、食事の改善で予防できるという仮説を立てます。しかし、当時から細菌による伝染病だと考えられており、多くの医師が反論。その中には、陸軍軍医の森岡外もいました。ちょうどそのころ、練習航海に出ている軍艦「龍驤」で乗組員の半数がかけを患い、航海ができないうという内容の電報が届きます。そこで兼寛は軍艦「筑波」で航海実験を実施。自身が考える理想の食事を積み、「龍驤」と同じコースをたどりましたが、病人は1人も出ず、食事改善の有効性を証明したのです。

宮崎市内にある小中学校の給食で「高木兼寛麦飯カレーの日」

兼寛が生まれた9月15日の前後に、学校給食で「高木兼寛麦飯カレーの日」を実施し、通常より麦を増量した麦飯を提供。兼寛の功績を伝えるとともに、ビタミンの重要性など栄養学習も行います。



昨年実施した「麦飯カレーの日」の様子

病院や保険会社の設立、政治まで多方面で活躍  
兼寛の活躍は医学界だけにとどまりません。生命保険会社「帝国生命保険(現・朝日生命保険)」創設への参画をはじめ、政治家として貴族院議員、東京市会議員なども歴任しました。また宮崎神宮大造営の際には幹事長として尽力するなど、故郷の宮崎にも数多くの功績を残しました。晩年は国民の体位向上を図ることを務めとし、学校を中心に国民衛生、精神修養に関する講演を全国で行いました。



高木兼寛一行の夏のみそぎ会(大正7年静岡岡島浅間神社)。前列左から3人目が兼寛



宮崎神宮

略年譜 ※年齢は数え年、紫字は社会の出来事

明治15年(1882) [34歳]	6月、海軍軍医大監に任ぜられる。8月、有志共立東京病院(東京慈恵会医科大学附属病院の前身)を設立。
明治16年(1883) [35歳]	11月、海軍将兵のかけ予防策として兵食改善の必要があることを明治天皇に奏上。
明治18年(1885) [37歳]	4月、看護婦教育所(日本初の看護学校)を設立。 12月、 <u>海軍軍医総監に任ぜられる。</u>
明治18年(1885)	伊藤博文が初代内閣総理大臣に
明治20年(1887) [39歳]	帝国生命保険(現在の朝日生命保険)の創設に参画。
明治21年(1888) [40歳]	5月、 <u>日本最初の医学博士の学位を授与される。</u>
明治22年(1889)	北里柴三郎が破傷風菌の純粋培養に成功
明治23年(1890)	森岡外が『舞姫』を発表
明治25年(1892) [44歳]	8月、天皇から貴族院議員に選ばれる。
明治27年(1894)	日清戦争始まる(～1895)
明治32年(1899) [51歳]	4月、宮崎神宮大造営計画に幹事長として参画。
明治37年(1904)	日露戦争始まる(～1905)
明治38年(1905) [57歳]	3月、 <u>華族に列せられ、男爵を賜る。</u>
明治39年(1906) [58歳]	1月～7月、欧米旅行。コロンビア大学、フィラデルフィア医科大学ほか各国の大学で講演。
大正元年(1912) [64歳]	9月、国民体育奨励のための講演を行う。以後各地で国民衛生、精神修養について講演。
大正3年(1914)	第一次世界大戦始まる(～1918)
大正9年(1920) [享年72]	4月13日、逝去。